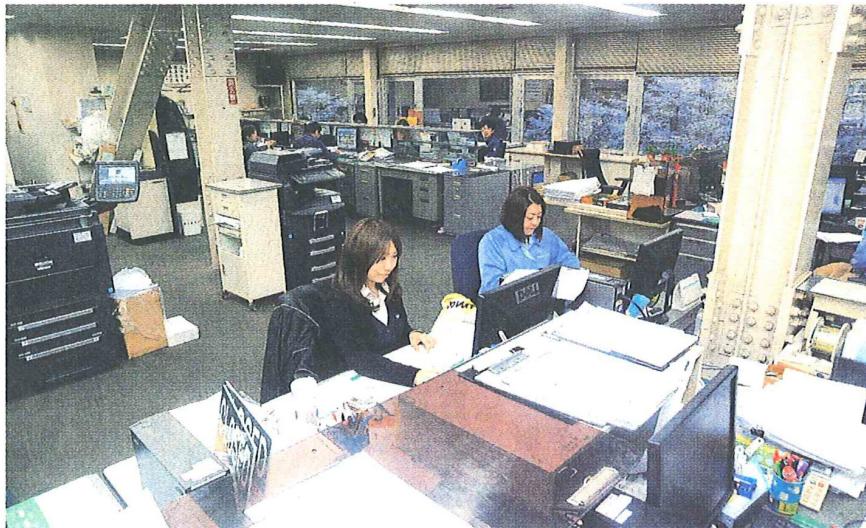


地下水の豊富な岐阜県。そのメリットを生かすと地中熱や地下水を空調に使う県内企業が、じわりと増えている。

コンビニ店舗の棚を作る棚橋工業(岐阜市芥見東山)。事務担当の宮田有美さん(25)は「この冬、足元に置いた電気ヒーターを使わなかつた。部屋全体が暖かくて、膝掛けも使わなかつた」。昨年末に稼働した地中熱空調システム。「暖かさが違つ」と社員に好評だ。

従来から製品の洗浄用に井戸水を使っていた。井戸水の熱を空調に使えばコストを抑えられ、環境にも優しい。そう考えた。初期コストは数百万円割高になつたが、年間で42万円ほど燃料代を減らせそうだ。不破裕康

地中熱空調、県内企業に広がる



岐阜市や大垣市は「アーチの上に浮かんでいるようなもの」と表現する関係者もいる。長良川などの伏流水、地盤沈下しにくい砂利を多く含んだ地盤。なにより地下水が暮らしに浸透しているため井戸が多く、初期投資を抑えられる。

建設コンサルタントのティコク(岐阜市青柳町)は同市日光町の自社ビルに地中熱空調を取り入れている。使っていなかつた井戸を活用した。新しく掘れば1千万円は超え

「岐阜市や大垣市は「アーチの上に浮かんでいるようなもの」と表現する関係者もいる。長良川などの伏流水、地盤沈下しにくい砂利を多く含んだ地盤。なにより地下水が暮らしに浸透しているため井戸が多く、初期投資を抑えられる。建設コンサルタントのティコク(岐阜市青柳町)は同市日光町の自社ビルに地中熱空調を取り入れている。使っていなかつた井戸を活用した。新しく掘れば1千万円は超え

総務部長(62)は「これまで近くにエネルギーがあることを知らず、捨

行政も注目、費用助成

**ぎふ・広がる
再生可能エネルギー**

◇ 3 ◇

ていた」と話す。
夏冷たく冬暖かい地下
水を部屋の冷暖房に使う
地中熱空調は、東京スカイツリーにも導入される

など全国で右肩上がりに増えている。地下水が豊富な岐阜県は全国で最も適した地域の一つといえ。行政も注目する。大垣市は本年度から地下水利用で地中熱ヒートポンプの設置に上限100万円を

豊富な地下水を活用

井戸水は熱を交換するだけで水質は変わらないので、そのまま流すことができる。地下水は無料、処理費用も掛からない。2012年2月の稼働以来、水があふれたりするトラブルはないという。

行政も注目する。大垣市は本年度から地下水利用で地中熱ヒートポンプの設置に上限100万円を

助成する。
ティコクなど県内企業や個人でつくるNPO法人地中熱&地下水資源活用NET(岐阜市芥見南山)の香田明彦理事長(59)は「岐阜の豊かな地下水は工業用水として使われてきたが、これからはエネルギー源として注目が高まる」と展望する。

導入費用はまだ高く、住宅用で200万円ほど。だが太陽光発電のように広がれば価格が下がる可能性も高い。病院や介護施設、コンビニなど24時間空調が必要などころほど導入メリットは大きい。「電気代や燃料代が上がれば上がるほど、地中熱への関心は高まつていいだろう」と予想する。

地下水を使った空調を採用了した棚橋工業の事務所。部屋全体がまんべんなく暖かく社員にも好評だ。岐阜市芥見東山、同社